
ビバ！クラス会

桜桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ビバ！クラス会

【Nコード】

N4426M

【作者名】

桜桃

【あらすじ】

生放送中の出来事を録画しておいた園子は、クラス会を開いて、みんなに暴露することに！！これが工藤新一。内容のやつです。

この話は、名探偵コナン 自作小説にも掲載されています。

うんうん。

今日はかなりと集まったんじゃないの？

クラス会！！

しかも、いいメンバーはみんな揃ってる！！

あとは主役が来るだけよ！

「..」

「久しぶり。みんな。」

「蘭！それに工藤君も。」

「今日のクラス会、なんの為に開いたんだ？」

「しらねえよ！」

そうよ、新一君たちはなにも知らない。

私の考えている悪巧みを……！！

「みんな！私が開いたの。ある、理由があつてね。
その理由はみんなが知っているとおり、あれよ、あ・れ。」

さあ、ショーの幕開けよ……！！

「新一君と蘭をからかおうと思ってね。」

ジー……

『はじめまして。今日はよろしく願いします。』

『いちいちぞ。』

『ではさっそく、質問したいと思います。』

『はい。』

「ね、ねえ、園子。これ・・・」

蘭が思い出したように私を見る。

『高校生探偵となつてから、絶えなく、女性ファンが急増していますが、

これに関してなにか思いますか？』

『もともと探偵は、モテたくてやったわけじゃありませんから、どう思つていうことはとくにありませんね。』

『なぜ、探偵になろうと思ったのですか？』

『シャーロック・ホームズにあがれていたのと、父親をこえたかった

ったからですかね。それ以外頭にはなにもなくて、それだけを目指として生きてきましたから。』

「私、これ見たような気がする。」

最後のほうはお母さんに呼ばれて見れなかったんだけど。」

「あ、俺も最後は見れなかった!」

あー。もったない!

でも、そんな人もいるだろうと、録画ビデオを持ってきたのよね。

『なるほど。しかし、22歳となると、恋人とかいたりしません?』

『恋人はいませんね。』

『あら、恋人がいないと知ったら狙うファンが多くなりそうですね。』

『

『狙うだけ、無駄だと思いますけどね。』

『え?』

『妻子がいる男が他に女をつくるわけがないでしょ?』

『なるほど……さ、妻子!?』

『ええ。あ、言ってませんでしたっけ?俺、18歳で結婚してるって。』

『け、結婚……でもって子供もいらっしやると?』

『はい。』

『18歳といいますと、はやいですね。婚約者とかですか?』

『いえ、幼馴染です。』

『幼馴染!?!』

『小さいころから、ずっと一緒に居て、気づいたら必要な存在となっていた。』

最初は片思いだったみたいですけど。

でも、やっぱり、思いは伝えなきゃいけないんですね、俺は振られる覚悟で告白した。

思いが通じたときは、死んでもいいってまじで思ってた。』

『お互いに、好きあっているんですね。うらやましいです。いつまでも幸せでいられるんでしょうね。』

『いや、ほとんど事件で家に帰るのが夜中になるんですよね。でも、いつもあいつは待っていてくれて、今でもいつ、愛想が尽きて出て行かれるか冷や冷やですよ。』

『まさかあゝ?』

「園子、オメーどこまで撮った?」

「んゝ、面白いところまで。でも、全日本放送のテレビで堂々と言ったんだから、2回目なんてどうってことないでしょ?」

「てめー・・・」

『ほんとですって。でも、買い物の荷物もちだけで許してもらえただけ

こっちはありがたいんですけど・・・』

『荷物もち!?!』

『まあ、昔からさせられて、慣れてるんですけどね。』

『慣れるまでさせられてたんですね。』

あまりいませんよね、荷物もちさせられている男の人って。』

『そうですね。荷物もちをしない男が大半だと思います。』

『それだけ好きだということですね。』

『はい、世界一愛している奴ですから。』

「きゃー!」

「工藤!?!」

「かつこいー！」

「言っなあゝ」

「蘭、うらやましい。」

なんて口々に叫ぶ。

見てよ、蘭と新一君の顔。

こういう反応がおもしろいから、やめられないのよね。

次はどんなことしようかしら。

私の生きがいなんだから。

その生きがいを得るために、2人には協力してもらわなきゃね。

（後書き）

蘭 「もー！園子ったら！！」

園子 「いいじゃない。クラスのみんなより多い人数に
生放送で暴露されたのよ？」

蘭 「そういう問題じゃ、ないもん・・・」

園子 「まあ、すぎさったことは気にしない気にしない♪
私も気にしないからさ！」

蘭 「園子！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4426m/>

ビバ！クラス会

2011年10月7日03時46分発行